

■今月の特選句

2017年4月

嘘寝してことの始終を聞く雛

椋本望生

ウソ寝がいい。夜の雛はどうしているのか。想像をふくらませる技は読者を驚かせて十分。私も一句。ガセネタを嘘寝の雛に聞かせるか。

うちのタマ野良に騙され春の闇

岡野 満

タマは女の子ですね。素性もわからぬ野良に騙されて孕まされたと。本当に騙されたのか、タマが騙したのかは両家の言い分を検証する必要あり。

雛納めいやじゃいやじゃを宥（なだ）めつつ

南とんぼ

俳句は思い込み。箱に納められるのはイヤだと雛たちが意思表示していることが前提の句。人の世の醜さを見飽きた雛は、いやじゃないかも知れぬ。

山笑ふ何が可笑しいのでしょうか

田村米生

なまじ季語の本意を知っていると、こんな自由な発想の句はつukれない。あるいは十分知っていて、昔ながらの季語の使い方に疑義を呈したのか。

リハビリは貧乏ゆすりで日向ぼこ

津田このみ

マナー違反とされていた貧乏ゆすりに治療効果があることは、最近の研究で明らかになった。貧乏ゆすりは滑稽俳句を作るのにも役立ったね。

春一番過労死間近風見鶏

井野ひろみ

春一番の吹き様を表現するのに風見鶏を登場させて巧み。過労死間近という表現で風の激しさも分かる。人も風見鶏も流れに逆らえない哀しさ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

海鼠噛む黙つてゐるには丁度いい
・・・沈黙は金海鼠も無口

山本 賜

増えるのはごみと年齢四月馬鹿
・・・するとなにかい年中お馬鹿

青木輝子

恋猫の孫連れ帰る三年目
・・・猫だけじゃない人もときどき

小川鈍太

春を買ふ誤解しないで花小鉢
・・・なあんだ春のお花のことか

有富洋二

さくさくといいね！もらひしうかれ猫
・・・にやんとも言えずよろしき気分

有富洋二

団子よりスマホを恨む桜かな
・・・花も団子もスマホにや勝てぬ

加川すすむ

五分の蜆に一分の魂砂を吐く
・・・一分のダニに五厘の魂

稲葉純子

月凍てて我に噛み付く鍵の穴
・・・鍵の夜遊び穴に叱られ

桑田愛子

駄菓子屋のケースで孵る雀の子
・・・雲のケースで孵るは雲雀

伊藤洋二

薔薇の芽に棘ある言葉育ちをり
・・・薔薇は芽にして鋭しといふ

下嶋四万歩

コーヒーの黒色不思議春の朝
・・・苦い思いのいやまして朝

高橋ユミ子

肝心な箇所がモザイクにて朧
・・・主宰はなべて秘訣は隠す

小林英昭

トランプ氏の大統領令氷漬け
・・・のちのちの世の歴史資料に

佐野萬里子

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | ポケモンにかまけ臍かむ受験生
笛吹けど国民踊らず四月馬鹿 | 青木輝子
青木輝子 |
| | 冬波や弾けるごとく日矢落とす
大雪や飛驒高山の火消し連 | 青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 雪解や北へ流れて日本海 | 青山桂一 |
| | マフラーを尻に敷く嗚呼忘れてたり | 赤瀬川至安 |
| 【佳作】 | 前歯折つたり豆撒きの豆当たる
御不浄のことは清浄冴返る | 赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 【佳作】 | トランプが春風に乗る崖つぶち
潤うか仁術算術春の雨
習い事すべて師がある暖かや | 秋月裕子
秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 | 変はりなく居眠りしをり卒業子
春雨といへどもときに土砂降りも | 有富洋二
有富洋二 |
| | 月冴ゆる酔ひがさめゆくお勘定
寒鯉は雄やも知れぬわれにくる | 井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 | 小顔に見えるマスクを選びけり | 井口夏子 |
| 【佳作】 | 禁煙酒場の客不機嫌にうるめかじる
少女みな一皮剥けて春模様 | 池田亮二
池田亮二 |
| | オードトワレハグしてキッスネオン町
ヒックリシャックリトックリコックリ花の酒 | 泉 宗鶴
泉 宗鶴 |
| 【佳作】 | 人の世や浪花節だよバラ色は | 泉 宗鶴 |
| | 春の宿いろいろありて暁鳥 | 伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 行先に赤線引いて春の旅 | 伊藤浩睦 |
| | 老眼鏡失せて蛙の目借時 | 伊藤洋二 |
| 【佳作】 | やるじやんか天辺高く鳥交る | 伊藤洋二 |

風船を空に取られて泣く子かな 何か得てなにかをなくし寒稽古 【佳作】 竹の秋目立たぬやうに白髪に	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】 山手線に乗り越しあらず春うらら 手を逃げて若鮎我を置き去りに	稲葉純子 稲葉純子
てんこ盛り苺づくしのパフェ三時 【佳作】 さかる猫殺気漂ふ夜半かな	井野ひろみ 井野ひろみ
卒業式あくびの涙頬濡らす 鶯の鳴き損じとも鳴き初めとも 【佳作】 桜色のほっぺのおちる桜餅	上山美穂 上山美穂 上山美穂
【佳作】 パラポラを天へ向けたりたんぽぽ黄 道草が好きで通学新入生 熊猫はパンダのことや春上野	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
下萌や噴出す大地の命なる 七折の梅の古木の花熟女 【佳作】 梅見茶屋なれど昆布茶お接待	梅岡菊子 梅岡菊子 梅岡菊子
水鳥やうららの春に横並び 校庭に歌声ひびく春隣 【佳作】 梅の香のトンネル抜けるうらうらと	梅野光子 梅野光子 梅野光子
親よりも長き脛もて卒業す 【佳作】 みほとけになつたつもりの座禅草 歩行器はかりそめの足鳥帰る	越前春生 越前春生 越前春生

- | | |
|---|----------------------|
| 【佳作】 春愁やお尻に穴が開いてゐる
調味料ハイミーといふ風光る
亀鳴いて百万円のおつりかな | 緒方順一
緒方順一
緒方順一 |
| 【佳作】 新人がお局さんを値踏みする
左遷地に恋の桜が咲きにけり | 岡野 満
岡野 満 |
| 子等が寝てひいな現す裏の顔
永き日の一万一步二歩三歩 | 小川鈍太
小川鈍太 |
| 白髪の子と語りて二月尽
【佳作】 つくしんぼスカイツリーと背比べ
梅東風といふには少し身に応へ | 奥脇弘久
奥脇弘久
奥脇弘久 |
| 球春へ坊主忘れし解説者
【佳作】 月朧落ちに合点の寄席帰り | 加川すすむ
加川すすむ |
| 観劇の興奮沈む牡丹雪
天に星地に沈丁の香り満つ
【佳作】 マンションの換気扇泣く春二番 | 川島智子
川島智子
川島智子 |
| 焼鳥は痛いよつらいよシクラメン
【佳作】 ジュリエットを寝かせるやうに雛納
髪型で変わる人生ヒヤシンス | 久我正明
久我正明
久我正明 |
| ハチ公の鼻先に待つ六つの花
【佳作】 風呂敷のロゴを踊らす春一番
蕨の臺持ち上ぐ空気入れしごと | 工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子 |
| 【佳作】 物創るやまれぬ思ひ木の芽吹き
涅槃雪大往生という別れ | 桑田愛子
桑田愛子 |
| 【佳作】 猥談の渦にまかる若き海女
春の夢ラブシーンならもう一度 | 小林英昭
小林英昭 |

鶉の目白追いやる紅椿	佐野萬里子
【佳作】 おでん種大根里芋ゆで玉子	佐野萬里子
あの人の名前継ぎ接ぐ日永かな	下嶋四万歩
【佳作】 宙吊りの胃の腑にたまる春愁	下嶋四万歩
【佳作】 虎落笛一つ覚への声をあぐ	壽命秀次
上州の律儀ものなり空っ風	壽命秀次
四日目も高級苺お店番	壽命秀次
合格の通知の知らせ春二番	白井道義
針穴に通せぬ糸や針供養	白井道義
【佳作】 ともかくも我が輩は恋の猫である	白井道義
【佳作】 香水の強き婦人や梅見会	鈴鹿洋子
菜の花や園児の歌う「いちねんせい」	鈴鹿洋子
見つからない落の臺はまん丸いから	鈴木和枝
ヒヨドリひと足先にごめんねと落の臺	鈴木和枝
【佳作】 妥協はいつ 落の臺足で探る	鈴木和枝
カバン持ちマフラー付けて歩いてく	鈴木哲也
熟練にロコモ運動冬籠	鈴木哲也
【佳作】 カバー敷きひざ掛け毛布洗濯機へ	鈴木哲也
春ショール老人パスで颯爽と	高田敏男
咳き込めば隣の席は空席に	高田敏男
【佳作】 太平の世を騒がせて四月馬鹿	高田敏男
長靴は一足で足る雪解川	高橋きのこ
高齢者の嵩上げ如何春愁	高橋きのこ
【佳作】 フェンスとは飛び越えるもの猫の恋	高橋きのこ
琉球の晴れ着そよがせ卒業す	高橋ユミ子
【佳作】 あらおかし夫の白髪春うらら	高橋ユミ子

- | | |
|---|----------------------|
| 【佳作】 早春や老眼鏡を忘れ置き
春めくの城を眺めたる裸婦像
預言者になる夢を見る山笑ふ | 田中 勇
田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 続くかやトランプ相場日脚伸ぶ
死離婚を説くる人在りうすら寒
褒めて誉めて育てし孫やもやし独活 | 田中早苗
田中早苗
田中早苗 |
| 【佳作】 たいやき屋隣たこやき列迷ふ
野良猫に犬の怯える春の昼 | 田村米生
田村米生 |
| 団地にも見事な桜並木あり
【佳作】 飽きもせず花見のニュース流しけり | 津田このみ
津田このみ |
| 袖にした積りの虻の深情け
【佳作】 最早手も足も出ぬとて亀鳴けり
慣れっこの手許不如意や四十雀 | 都吐夢
都吐夢
都吐夢 |
| 加害者も被害者もみな花の人
長生きはしてみるものよ遍路杖
【佳作】 受験子の滑り止めのみサクラサク | 飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝 |
| 冬青の実今日も小鳥のランチかな
【佳作】 朝に昼着たり脱いだり春浅し
花粉症嫌いになったこの季節 | 中井 勇
中井 勇
中井 勇 |
| 年の豆歳の数まで食べられず
春雨や相合傘に宗旨替へ
【佳作】 春よ来いもつたいぶらず早く来い | 新島里子
新島里子
新島里子 |
| 地虫出て森の友達餓鬼ばかり
【佳作】 こんにやくを植えて待ってる永田町
食い違う夫唱婦随や万愚節 | 西をさむ
西をさむ
西をさむ |

【佳作】	できたての家に新築燕の巢 柄の数家紋と競うアサリかな 地ビールの泡も膨らみ水ぬるむ	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	しづり雪ぺらりと剥がす顔バック 卒業の以下同文のわが名かな 鳥帰るすつからかんの池に雲	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	誕生日同じなだけで喜べり 一と言う難しきこと一年生 締め切りと言う鬼が居て節分会	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	バレンタイン母からだけのチョコレート 水仙のあつちむいてほいの午下がり 鴨に撒く餌は宙の鳩がキャッチ	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】	新しき出会ひも別れも東風の中 ラッキーカラーの黄を選びけり春の服 頭から巻いて昭和よ春ショール	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	猪垣に電極垣に畏に知恵 のどかさの芝で青い眼ジャンケンポ 遍路の眼門出づまぶし高島田	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	紅白梅背筋伸ばせと肩叩く 春めくも風にもつれる老いの足 春めきて溼刺声やランドセル	細川岩男 細川岩男 細川岩男
【佳作】	卒業のメールの絵文字笑顔なる 雛の日爺の苦吟のひとりかな 末黒野の胎動を聴く阿蘇の山	本門明男 本門明男 本門明男
【佳作】	座禅草至仏に向かひ祈りある 梅の坂コツコツ杖をつき歩く 梅古木真青な空をさして咲く	松井寿子 松井寿子 松井寿子

黄砂濃し空中分解鳥にも	松井まさし
【佳作】片付け魔の娘襲来春嵐	松井まさし
逃水を追うブルドッグ荒い息	松井まさし
【佳作】落ちてごらん椿よ見ててあげるから	南とんぼ
園児等と祈ったホームのおひなさま	南とんぼ
【佳作】北開く事実誤認を晴らすごと	椋本望生
如月のSPAもよかると身をよぢる	椋本望生
探梅や犬にはえらるる道真公	村松道夫
アメリカに赤鬼現はる追難かな	村松道夫
【佳作】絵カルタや滑って転んで大分県	村松道夫
桜咲くイクメンは子に育てられ	百千草
後半はふたりがよろし春夕焼	百千草
【佳作】冴返る嫌ひの文字に女偏	百千草
新人のいつもの返事ほぼほぼと	森岡香代子
【佳作】綿菓子屋この木に花を咲かせます	森岡香代子
ハイウェイ突然出会ふ春の虹	森岡香代子
とりあつてくれるは今や子猫だけ	八木 健
【佳作】腰痛かも知れず涅槃図のお釈迦様	八木 健
あの人は極楽蜻蛉涅槃西風	八木 健
【佳作】寅次郎さくら泣かせば山笑ふ	八洲忙閑
春禽に対峙したるやブルドッグ	八洲忙閑
たんぽぽのぼぼのとぶとぶ小世界	八洲忙閑
【佳作】まあだかい響く啓蟄もういいよ	八塚一青
おろし器に春大根が融けてゆく	八塚一青
背伸びして得た合格や視界良し	八塚一青
【佳作】春の風邪詫び入れに来て置土産	柳 紅生
千鳥足はや忍び足明易し	柳 紅生
裏切られてもまたすぎる花の山	柳 紅生
心拍数響かせウインク春子猫	柳澤京子
春眠や愛犬チャックと深眠り	柳澤京子
【佳作】春疾風愛犬帽は風の波	柳澤京子
【佳作】山眠りもう起きてゐる魚市場	柳村光寛
生きてゐる利息のやうな朝寝かな	柳村光寛
紅梅にたしなめらるる朝帰り	柳村光寛

吹雪かれてなお一層の浄めかな	山下正純
銀鏡池雲晴れて冬十三夜	山下正純
【佳作】 雛祭り内裏の祭りとは言わず	山下正純
冬日さし金庫のやうにポストかな	山本 賜
【佳作】 たんぽぽが浴びてをるなり褒め言葉	山本 賜
国会は虚虚実実や万愚節	横山喜三郎
【佳作】 先生のほっとした顔卒業す	横山喜三郎
桜さくら桜見もせず狂乱す	横山喜三郎